

## 令和2年度事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

## I 法人の概況

## 1 設立年月日

平成16年8月16日

## 2 定款に定める目的（第3条）

岐阜県産農畜産物の安全性の確保、安心感の向上及び県民の健康増進に関し、必要な検査、調査、研究及び啓発を行い、もって県内農畜産業の健全な発展に寄与する。

## 3 定款に定める事業内容（第4条）

- （1）残留農薬分析、土壌分析、米食味分析その他分析検査事業
- （2）健康増進に関わる農畜産物の研究開発事業
- （3）岐阜県産農畜産物の情報提供、普及啓発事業
- （4）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## 4 所管官庁に関する事項

岐阜県（農政部農政課）

## 5 会員の状況

種類	区分	当期末	前期末比較増減
正会員	団体	11団体	—
	個人	—	—
賛助会員	団体	4団体	△1
	個人	—	—
合計	団体	15団体	△1
	個人	—	—

## 6 事務所所在地

岐阜市宇佐南4丁目11番5号

## 7 役員等に関する事項

(令和3年3月31日現在)

役職名	氏名	常勤・非常勤の別	現職
理事長	平工 孝義	非常勤	学識経験者
理事	桑田 博之	非常勤	学識経験者
理事	櫻井 宏	非常勤	ぎふ農業協同組合代表理事組合長
理事	谷口 壽夫	非常勤	飛騨農業協同組合代表理事組合長
理事	山内 清久	非常勤	全国農業協同組合連合会岐阜県本部運営委員会会長
理事	長尾 安博	非常勤	岐阜県農政部長
理事	前澤 重禮	非常勤	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学 応用生物科学部教授
監事	松永 政人	非常勤	岐阜県農業協同組合中央会専務理事
監事	西村 寿文	非常勤	全国農業協同組合連合会岐阜県本部長

- ・理事：現在数7人（定款第21条第1項第1号による定数は4人以上10人以内）
- ・監事：現在数2人（定款第21条第1項第2号による定数は2人以内）
- ・任期：2年（令和元年6月28日～令和3年6月の通常総会終結時）

## 8 職員等に関する事項

(令和3年3月31日現在)

職員の区分	人数	備 考
職 員	6名	管理部門2名、事業部門4名
嘱 託 員	一名	
出向職員	1名	全農岐阜県本部から出向
計	7名	

## 9 許認可に関する事項

該当無し

## II 事業の状況

### 1 農産物の安全性確保及び品質向上に関する業務

#### (1) 残留農薬分析業務

ア スクリーニング分析 (多成分一斉分析)

(ア) 分析件数

J Aグループの自主検査対応を主体とする会員からの受託については、ほぼ計画どおりの実績となった。

区 分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
穀 類	150件	136件	90.7%	142件	95.8%
会 員	147件	134件	91.2%	139件	96.4%
一 般	3件	2件	66.7%	3件	66.7%
園芸作物	700件	705件	100.7%	701件	100.6%
会 員	697件	702件	100.7%	700件	100.3%
一 般	3件	3件	100.0%	1件	300.0%
そ の 他	0件	9件	—%	2件	450.0%
会 員	0件	5件	—%	2件	250.0%
一 般	0件	4件	—%	0件	—%
合 計	850件	850件	100.0%	845件	100.6%
会 員	844件	841件	99.6%	841件	100.0%
一 般	6件	9件	150.0%	4件	225.0%

(イ) 分析品目数

年間74品目の分析を行った。(うち2品目は新規品目)

現在139品目の分析が可能となっている。

分析件数	品 目 名
50件以上	トマト、玄米、ほうれんそう、苺 (4品目)
10～49件	かき、茶、なす、きゅうり、小松菜、枝豆、だいこん(根)、小麦、たまねぎ、さといも、ブロッコリー、キャベツ、人参(根) (13品目)
10件未満	じゃがいも、ピーマン、ねぎ、未成熟ささげ、かぼちゃ、日本なし、さつまいも、みずな、しゅんぎく、甘長とうがらし、なばな、白菜、未成熟そら豆、未成熟いんげん、栗、しいたけ、モロヘイヤ、大麦、ぶどう、みかん、もも、いちじく、メロン、サンショウ(実)、ふき、チンゲン菜、やまのいも、にがうり、未成熟とうもろこし、にんにく、オクラ、レタス、ズッキーニ、かぶ(根)、生茶葉、スナップエンドウ、キウイフルーツ、りんご、とうがらし、アスパラガス、まくわうり、なつみかん、アマランサスの茎葉、西洋なし、れんこん、さんとうさい、キクイモ、そうめんかぼちゃ、すもも類、ハトヤウリ、えんさい、パプリカ、マコモの茎、だいず、ヤーコン、マンゴー、アレッタ (57品目)

(ウ) 分析結果

ほぼ前年と同様の検出値報告事例数となっている。

(前年実績 64件(7.6%))

区分	全 体	内 訳	
		検出あり	検出なし
分析試料数	841件 (100%)	74件 (8.8%)	767件 (91.2%)
報告成分数	241,979成分 (100%)	83成分 (0.03%)	241,896成分 (99.97%)

※ 穀類、園芸作物のみ（その他分類の基準値がないもの除く）

イ 単成分分析

単成分分析は、スクリーニング分析結果による追跡調査など、特別な目的を持って行う分析であり、年度毎の変動要素が大きい。今年度は計画よりは上回ったが、前年実績との比較は合計で同じであった。

区分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
穀 類	30 件	49 件	163.3 %	40 件	122.5 %
園芸作物	30 件	25 件	83.3 %	26 件	96.2 %
その他	30 件	59 件	196.7 %	67 件	88.1 %
合 計	90 件	133 件	147.8 %	133 件	100.0 %

(2) かび毒分析業務

受託がなかった。

区分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
小麦他	5 件	0 件	0.0 %	0 件	0.0 %

(3) 土壌分析業務

計画、前年実績と比較すると、穀類対象・園芸対象ともに増加となったが、年度毎の変動要素が多いため、特異な理由を認めるものではないと考えられる。

区分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
穀類対象 3項目	100 件	109 件	109.0 %	75 件	145.3 %
園芸対象 7項目	700 件	766 件	109.4 %	748 件	102.4 %
合 計	800 件	875 件	109.4 %	823 件	106.3 %

(4) 米食味分析業務

受託状況は計画、前年実績とも下回った。

区分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
玄 米	250 件	184 件	73.6 %	195 件	94.4 %

(5) その他分析業務

玄米のDNA及びカドミウム分析については、アウトソーシングにより実施しており、ほぼ計画どおりの実績であった。

区分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
DNA	100 件	100 件	100.0 %	100 件	100.0 %
カドミウム	100 件	97 件	97.0 %	100 件	97.0 %

## 2 農畜産物の認定、認証及び調査に関する業務

- (1) 特別栽培米生産管理工程確認の評価業務  
前年度に引き続き、ぎふ特別栽培米取扱要領に基づく生産管理工程の確認業務について、全農岐阜県本部より諮問を受け、その評価業務を実施した。

<評価業務内訳>

実施日	評価対象工程
R2. 9. 29	令和2年産ぎふ特別栽培米精米・玄米袋表示原簿作成工程、変更申請書承認工程、及び栽培記録検証工程
R2. 11. 4	令和2年産ぎふ特別栽培米栽培記録検証工程
R3. 3. 24	令和3年産ぎふ特別栽培米確認申請書承認工程

## 3 健康増進に関わる農産物及び食品の開発・研究等に関する業務

- (1) **新** 業務カイゼン調査研究事業

### ア 研究の目的

昨今の国際標準化の流れの中、農薬取締法や食品衛生法等の改正も順次実施され、残留農薬分析においてはこれらへの適切かつ迅速な対応が求められている。

また、GAP認証に伴う残留農薬分析においては、生産者毎に対応が異なる可能性があり、より柔軟性のある対応が求められる。

当センターにおいては、各種学会等を通じた情報収集に努め分析業務に取り組んでいるものの、必ずしも十分な体制とは言えず、今後の様々な変化に適確に対応可能な体制を構築することが必要不可欠である。

また、現在行っている残留農薬分析や土壌分析以外の分析業務についても視野を広げつつ、県内農畜産業の健全な発展に寄与したい。

### イ 令和2年度の研究内容

- ① 一斉分析方法の簡便化(時間の短縮、コストの削減)
- ② 現状の一斉分析では、分析困難かつ使用頻度の大きい成分の分析法の確立

- ①、②のテーマのもと、現状の一斉分析方法の精度を維持しつつ、時間の短縮化、コストの削減が可能な方法を探索する。

### ウ 実績等

- ・ 令和2年6月22日に第1回カイゼンミーティングを行い、改善テーマの絞り込みを行った。

#### 【テーマ】

- ① グリホサート(ラウンドアップ)分析法の検討(単成分)
  - ② チオファネートメチル(トップジンM)の一斉分析法への追加検討
  - ③ カーバマナトリウム塩(キルパー等)分析法の検討
  - ④ 土壌分析における可給態窒素の追加検討
- ・ 令和2年10月2日に第2回カイゼンミーティングを行い、中間報告と

- してテーマ毎に実現の可否について議論した。
- ・ 令和3年2月26日に第3回カイゼンミーティングを行い、今年度の成果を報告した。

上記テーマの③は分析法が確立した。生産者からの需要は未知数であるが、当面は令和3年度からの県農業技術センターとの共同研究に活用する。  
①④のテーマ、並びに②はテーマ名を一斉分析法の改良検討として、令和3年度の継続研究テーマとする。

## (2) ISO/IEC17025認定取得事業

### ア 事業の目的

令和元年度に認定取得したISO/IEC17025について、認定継続に必要な措置を講じる。

### イ 実績等

令和2年6月2日に、認定後1年目に必要な「サーベイランス審査」を受け、指摘事項は無かった。

また、ISO/IEC17025認定範囲試験の公平性の確保については、会員、役員、要員とも問題となるような事案の発生は無かった。

## 4 岐阜県産農産物の情報提供・啓発に関する業務

### (1) 普及啓発業務

県内外からの視察研修の受け入れを行い、センターの活動を中心とした県内産農産物の安全性の確保・安心感の向上に向けた取り組みについて、継続して普及啓発を行っている。

令和2年度はコロナ禍ということもあり、団体視察は全農本所職員（3名）のみであった。例年受け入れている全農新卒入会者（6名）の団体視察も中止となった。

### (2) 情報提供業務

インターネット上にホームページを公開し、業務の紹介とぎふクリーン農業に関する情報の提供及び経営状況等の最新の情報を開示している。

また、事務局窓口に各種資料を備え置いて閲覧に供することにより、会員はもとより一般のお客様へのサービス向上にも努めている。

### (3) 新 広報誌の発行

会員をはじめ関係者の皆様に、センターのことをより知ってもらい、身近に感じてもらうために、年2回「ぎふ農研NEWS」を発行することとした。

創刊号は令和2年11月1日に発行した。

## 5 会議に関する事項

### (1) 総会の開催

#### ・ 第47回通常総会

(ア) 開催日：令和2年6月30日

(イ) 開催場所：県農協会館2階大会議室

(ウ) 議事：令和元年度事業報告、決算報告、令和2年度収支補正予算、役員の選任、公益目的支出計画実施報告書の報告

#### ・ 第48回臨時総会

(ア) 開催日：令和3年3月9日

(イ) 開催場所：県農協会館2階大会議室

(ウ) 議事：令和3年度事業計画、収支予算 他

・第49回臨時総会

(ア) 開催日：令和3年3月30日

(イ) 開催場所：決議の省略

(ウ) 議 事：理事1名選任

(2) 理事会の開催

・第1回理事会

(ア) 開催日：令和2年6月12日

(イ) 開催場所：県農協会館2階大会議室

(ウ) 議 事：令和元年度事業報告、決算報告、公益目的支出計画実施報告書の承認、令和2年度収支補正予算、第47回通常総会の開催

・第2回理事会

(ア) 開催日：令和2年10月28日

(イ) 開催場所：県農協会館2階大会議室

(ウ) 議 事：職務の執行状況報告（令和2年度上期事業報告）

・第3回理事会

(ア) 開催日：令和3年2月5日

(イ) 開催場所：県農協会館2階大会議室

(ウ) 議 事：令和3年度事業計画、会員別負担金、役員報酬、収支予算、臨時総会の開催、職務の執行状況の報告（令和2年度事業実施見込み）

・第4回理事会

(ア) 開催日：令和3年3月25日

(イ) 開催場所：決議の省略

(ウ) 議 事：第49回臨時総会（決議の省略）の開催